

令和5年度 第1回 みんなで支える森林づくり長野地域会議 概要

【開催日時】 令和5年9月6日（水）13時00分～15時30分

【開催場所】 長野市七二会支所（長野市七二会丁211-1）及び現地視察箇所

【出席構成員】

<構成員> ※敬称略

渡辺隆一（座長）、相野律子、伊藤安芸、込山晴美、中島佐代子、山口美緒、和田浩夫

<事務局（長野地域振興局）>

榎秋林務課長、佐藤林務係長、高橋林産係長、武田普及係長、山本担当係長、大草鳥獣対策専門員

<視察先>

水口敏弘会長（七二会里山整備利用推進協議会）、石坂和夫会長（七二会森林クラブ）

【現地調査】

- （1）森林づくり県民税活用事業における、「開かれた里山整備・利用計画」の申請箇所の視察（七二会2地区：七二会里山整備利用推進協議会）
- （2）七二会地区における里山整備利用地域の活動状況の視察（七二会3地区：七二会森林クラブ）

【会議事項】

- （1）森林づくり県民税活用事業について
 - ・令和4年度みんなで支える森林づくりレポート ≪会議資料1≫
 - ・長野地域振興局分 令和4年度実績及び令和5年度計画 ≪会議資料2≫
- （2）開かれた里山整備計画について ≪会議資料3≫
- （3）意見交換

<事務局説明>

- （1）森林づくり県民税活用事業について
 - 令和4年度みんなで支える森林づくりレポート
長野地域振興局林務課（以下「局」という。）で説明。資料により全体の概要等説明
 - 長野地域振興局 令和4年度実績及び令和5年度計画
資料2について、順を追って局から実績及び計画を説明。

(2) 開かれた里山整備計画について

▶資料3について、事前に書面開催で承認を得た内容をあらためて局及び水口会長、石坂会長から説明。

また、書面承認の際に各構成員から出た意見に対する回答と説明、質疑応答を実施。

(3) 意見交換

▶令和4年度実績及び令和5年度計画について

(松くい虫被害に関すること)

- ・地球温暖化の影響か、松くい虫被害や病害虫被害が増加しているように思う。この松くい被害木の有効活用はないか。
- ・松本地域などの激甚被害地で再造林を進めてほしい。

【局説明】被害木の有効活用法としては、バイオマス発電燃料としての利活用がある。令和4年度はまとまって発電施設へ搬入することが出来た。また、激甚被害地について再造林は課題の1つである。天然更新で広葉樹に変換する「更新伐施業」なども始まっている。

(観光地の魅力向上に関すること)

- ・この事業を導入したあと、森林整備のその後の手入れはどうなるのか。誰が受け持つのか。

【局説明】市町村で実施。

(まちなかの緑、街路樹の整備に関すること)

- ・令和5年度から新たに5か年が始まり、前期までは山に注力していたものを今期からは街中に目を向けるという話があったが、街中へ、とは具体的にもう少しご説明いただきたい。

【局説明】業務概要の14ページをご覧ください。信州まちなかグリーンインフラ計画に基づく、建設部が実施する事業で、街路樹などの整備や観光地の景観整備（道路や橋梁が対象。県直営）となっている。

(予算に関すること)

- ・令和3年度と令和4年度の当年度予算を比べると、かなり増減がある。そのあたりはどのようなやりくり、工夫の結果なのか、また令和5年度予算の割り振りについて。

【局説明】森林整備などは森林所有者の同意を得るプロセスがあることから安定的な業務量の確保が難しい面もある。また、森林税の5年間の最終年度は早めに事業を繰り上げているため、増減が生じる。

(令和5年度予算については、令和5年度林務部業務概要で説明)

➤その他意見・発言等

(木材に関すること)

- ・山から木を出したい。ウッドショックにより、木材価格が高騰した。半面、住宅様式も変わり、「良い木をつくる」という時代でなくなっている。各地では伐ってみればトビクサレだった、なども多い。経済の波の中で所有者の意向に沿うのも必要だが、再造林までと考えると、なかなか難しい。カラマツはまだよいが、スギに関しては花粉や獣害、また、再造林後は下刈り10年など、近年の猛暑の中での作業を考えると、従業員の確保など求人してもなかなか確保が難しく、再造林の課題は多いと考える。

(森林環境譲与税について)

- ・譲与税でいろいろ工夫して実施している市町村もあり、それらを見て、他の市町村でも事業を始めてくれている。譲与税をうまく活用し、人材育成や林業就業者への支援などに使ってもらえればと思う。

(バイオマス発電について)

- ・塩尻の木材由来のバイオマス発電施設について破綻したが、支援企業が出たと聞いている。要因は木材不足であった、と聞いたが、他の発電所も含め今後の見通しはどうか。

【局説明】 長野県内で現在稼働しているのは3箇所。周辺の県でも複数建設され、燃料の取り合いとなっている。燃料となる木質チップが、製紙会社との取り合いとなり、価格が高騰している。今後、製材端材を含め、松くい虫被害木等も活用し、需給バランスをとっていくことが必要。